



## 平成27年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕（非連結）

平成26年10月30日

上場会社名 株式会社ホットマン 上場取引所 東  
 コード番号 3190 URL <http://www.yg-hotman.com/>  
 代表者 (役職名) 代表取締役 (氏名) 伊藤 信幸  
 問合せ先責任者 (役職名) 専務取締役管理本部長 (氏名) 柳田 聡 TEL 022-243-5091  
 四半期報告書提出予定日 平成26年11月13日 配当支払開始予定日 —  
 四半期決算補足説明資料作成の有無：無  
 四半期決算説明会開催の有無：有（機関投資家向け）

(百万円未満切捨て)

### 1. 平成27年3月期第2四半期の業績（平成26年4月1日～平成26年9月30日）

#### (1) 経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
27年3月期第2四半期	8,825	—	△501	—	△476	—	△396	—
26年3月期第2四半期	—	—	—	—	—	—	—	—

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
27年3月期第2四半期	△54.44	—
26年3月期第2四半期	—	—

(注) 当社は、第2四半期の業績開示を平成27年3月期より行っているため、平成26年3月期第2四半期の実績及び増減率は記載しておりません。

#### (2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
27年3月期第2四半期	14,417	5,257	36.5	722.65
26年3月期	15,131	5,705	37.7	784.25

(参考) 自己資本 27年3月期第2四半期 5,257百万円 26年3月期 5,705百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
26年3月期	—	—	—	10.00	10.00
27年3月期	—	0.00	—	—	—
27年3月期(予想)	—	—	—	10.00	10.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

### 3. 平成27年3月期の業績予想（平成26年4月1日～平成27年3月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	22,170	△2.5	330	△64.5	360	△62.7	130	△73.4	17.87

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(注) 詳細は、添付資料P. 4「2. サマリー情報（注記事項）に関する事項 (2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示」をご覧ください。

(3) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	27年3月期2Q	7,275,500株	26年3月期	7,275,500株
② 期末自己株式数	27年3月期2Q	－株	26年3月期	－株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	27年3月期2Q	7,275,500株	26年3月期2Q	5,182,500株

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表に対するレビュー手続は終了していません。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P. 3「1. 当四半期決算に関する定性的情報 (3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項	4
(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	4
(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	4
3. 四半期財務諸表	5
(1) 四半期貸借対照表	5
(2) 四半期損益計算書	6
第2四半期累計期間	6
(3) 四半期財務諸表に関する注記事項	7
(継続企業の前提に関する注記)	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	7
(セグメント情報等)	7

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第2四半期累計期間における我が国の経済環境は、政府による各種政策等により緩やかな回復基調が続いているものの、平成26年4月の消費税率引き上げに伴う駆け込み需要の反動の長期化により、持ち直しつつあった個人消費はこのところ足踏みがみられ、海外景気の下振れによる影響が懸念されるなど、先行きは依然として不透明な状況で推移しております。

当社を取り巻く環境もまた例外ではなく、当社の出店エリアにおいては、増税後の反動が当初想定していた以上に長期化し苦戦を強いられました。

そのような環境の中、当社におきましては、会社方針に「ホットマンは永遠の未完成企業〈未完成だから永遠にチャレンジができる〉」を掲げ、各事業の既存店において中期的な安定顧客の確保を目的に店舗の改装等を行うなどの積極的な営業活動を行って参りました。

4月に㈱千明カルチャーより宮城県仙台市宮城野区のTSUTAYA2店舗を譲り受け、7月に宮城県加美郡加美町にイエローハット1店舗の新規出店を行い、当第2四半期会計期間末の店舗数は、イエローハットが81店舗、TSUTAYAが10店舗、アップガレージが6店舗、ガリバーが3店舗、ダイソーが2店舗、自遊空間が1店舗、セガが1店舗、宝くじ売場が5店舗の合計109店舗となっております。

この結果、当第2四半期累計期間の業績は、売上高は8,825百万円、経常損失は476百万円、四半期純損失は396百万円となっております。

セグメント別の業績は次の通りであります。

#### [イエローハット]

当社の主たる事業であるイエローハット事業におきましては、平成26年3月の降雪により夏タイヤ需要の一部が同年4月にずれ込み、タイヤ販売は好調でしたが、増税後の反動が長期化したことにより、カーナビゲーション等の高額商品を中心に売上高が大幅に落ち込みました。そのような環境の中、当社のイエローハットでは、7月に宮城県加美郡加美町に県内30号店となるイエローハット加美中新田店の新規出店を行いました。また、既存店においては店舗改装等を行い、接客力の向上や車検・整備を中心としたサービス部門等への注力をはかって参りました。

この結果、当第2四半期累計期間の業績は、売上高6,705百万円、セグメント損失(営業損失)は344百万円となりました。

#### [TSUTAYA]

TSUTAYA事業におきましては、平成26年4月1日に㈱千明カルチャーより宮城県仙台市宮城野区のTSUTAYAヨークタウン新田東店とTSUTAYA田子店の2店舗を譲り受け、仙台バイパス沿線中心部のドミナント化を実現しました。ウォルト・ディズニー作「アナと雪の女王」や世代を問わず爆発的な人気を博している「妖怪ウォッチ」等、話題のタイトル商品の発売により、TSUTAYA事業全体としての売上高は順調に推移しております。また、利益向上を目的とした費用等の見直しを前事業年度より継続しており、セグメント利益(営業利益)についても順調に推移しております。

この結果、当第2四半期累計期間の業績は、売上高1,300百万円、セグメント利益(営業利益)は29百万円となりました。

#### [その他]

アップガレージ事業におきましては、前事業年度より導入した「東京タイヤ流通センター」を中心とした新品タイヤ販売の増加もあり、売上高は順調に推移しております。

ガリバー事業におきましては、増税後の反動が長期化したことにより、買取・販売共に大きく予想を下回りました。

ダイソー事業及び自遊空間事業におきましては、増税等の影響は少なく、サービスの向上により固定客が増加し、売上高は順調に推移しております。

宝くじ事業におきましては、今シーズンより導入されたワールドカップのサッカーを対象とした「toto」の販売が好調で、売上高は順調に推移しております。

この結果、当第2四半期累計期間の業績は、売上高820百万円、セグメント利益(営業利益)は8百万円となりました。

(2) 財政状態に関する説明

① 資産

当第2四半期会計期間末における流動資産の残高は623百万円減少し、7,575百万円(前事業年度末8,199百万円)となりました。これは主に、商品が938百万円増加したものの、現金及び預金が1,130百万円、売掛金が322百万円並びに未収入金が281百万円(その他の流動資産)減少したことによるものであります。

また、固定資産の残高は90百万円減少し、6,842百万円(前事業年度末6,932百万円)となりました。これは主に、のれん(無形固定資産)が45百万円増加したものの、事業譲受契約前渡金(投資その他の資産)が166百万円減少したことによるものであります。

この結果、総資産残高は14,417百万円(前事業年度末15,131百万円)となりました。

② 負債

当第2四半期会計期間末における流動負債の残高は36百万円減少し、5,974百万円(前事業年度末6,011百万円)となりました。これは主に、短期借入金が300百万円、買掛金が271百万円増加したものの、未払法人税等が424百万円、未払消費税等(その他の流動負債)が96百万円並びに1年内返済予定の長期借入金(その他の流動負債)が85百万円減少したことによるものであります。

また、当第2四半期会計期間末における固定負債の残高は229百万円減少し、3,185百万円(前事業年度末3,414百万円)となりました。これは主に、長期借入金が239百万円減少したことによるものであります。

この結果、負債合計残高は9,160百万円(前事業年度末9,426百万円)となりました。

③ 純資産

当第2四半期会計期間末における純資産の残高は448百万円減少し、5,257百万円(前事業年度末5,705百万円)となりました。これは主に、四半期純損失を396百万円計上並びに剰余金の配当を72百万円支払ったことによるものであります。

(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成26年10月10日の「業績予想の修正並びに特別損失の計上に関するお知らせ」で公表致しました業績予想からの変更はありません。

なお、当社の主たる事業のイエローハット事業において、主力商品であるスタッドレスタイヤの販売時期が11月から12月に集中するため、通常第3四半期累計期間の売上高は、第2四半期累計期間までの売上高と比べ著しく高くなっております。

## 2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

### (1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

### (2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

会計方針の変更

(退職給付に関する会計基準等の適用)

「退職給付に関する会計基準」(企業会計基準第26号 平成24年5月17日。以下「退職給付会計基準」という。)及び「退職給付に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第25号 平成24年5月17日。以下「退職給付適用指針」という。)を、退職給付会計基準第35項本文及び退職給付適用指針第67項本文に掲げた定めについて第1四半期会計期間より適用し、退職給付債務及び勤務費用の計算方法を見直し、退職給付見込額の期間帰属方法を期間定額基準から給付算定式基準へ変更、割引率の決定方法を割引率決定の基礎となる債券の期間について従業員の平均残存勤務期間に近似した年数とする方法から退職給付の支払見込期間及び支払見込期間ごとの金額を反映した単一の加重平均割引率を使用する方法へ変更致しました。

退職給付会計基準等の適用については、退職給付会計基準第37項に定める経過的な取扱いに従って、当第2四半期累計期間の期首において、退職給付債務及び勤務費用の計算方法の変更に伴う影響額を利益剰余金に加減しております。

この結果、当第2四半期累計期間の期首の退職給付引当金が14,119千円増加し、利益剰余金が9,123千円減少しております。また、第2四半期累計期間の営業損失、経常損失及び税引前四半期純損失はそれぞれ6,146千円増加しております。

3. 四半期財務諸表

(1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (平成26年3月31日)	当第2四半期会計期間 (平成26年9月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	2,196,554	1,066,455
売掛金	714,542	392,290
商品	4,266,816	5,205,153
貯蔵品	2,323	2,346
その他	1,019,793	909,328
貸倒引当金	△653	△46
流動資産合計	8,199,377	7,575,529
固定資産		
有形固定資産		
建物(純額)	2,458,443	2,454,495
土地	1,860,633	1,861,666
その他(純額)	527,133	488,149
有形固定資産合計	4,846,209	4,804,311
無形固定資産	36,600	78,925
投資その他の資産	2,049,653	1,959,000
固定資産合計	6,932,463	6,842,237
資産合計	15,131,841	14,417,766
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	935,869	1,206,920
短期借入金	2,400,000	2,700,000
未払法人税等	453,280	28,615
賞与引当金	102,666	105,583
ポイント引当金	223,076	234,501
その他	1,896,980	1,699,340
流動負債合計	6,011,873	5,974,960
固定負債		
社債	50,000	-
長期借入金	2,127,920	1,888,400
退職給付引当金	673,415	742,902
役員退職慰労引当金	125,340	127,419
資産除去債務	132,468	136,803
その他	304,994	289,611
固定負債合計	3,414,138	3,185,136
負債合計	9,426,012	9,160,097
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	1,910,645	1,910,645
資本剰余金	500,645	500,645
利益剰余金	3,205,077	2,727,125
株主資本合計	5,616,368	5,138,416
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	89,460	119,252
評価・換算差額等合計	89,460	119,252
純資産合計	5,705,828	5,257,669
負債純資産合計	15,131,841	14,417,766

(2) 四半期損益計算書  
(第2四半期累計期間)

(単位：千円)

	当第2四半期累計期間 (自 平成26年4月1日 至 平成26年9月30日)
売上高	8,825,997
売上原価	5,133,723
売上総利益	3,692,274
販売費及び一般管理費	4,193,868
営業損失(△)	△501,594
営業外収益	
受取手数料	17,757
受取賃貸料	26,682
産業廃棄物収入	17,258
その他	17,597
営業外収益合計	79,294
営業外費用	
支払利息	33,299
賃貸収入原価	17,633
その他	2,985
営業外費用合計	53,919
経常損失(△)	△476,218
特別損失	
減損損失	96,410
固定資産除却損	508
特別損失合計	96,918
税引前四半期純損失(△)	△573,136
法人税、住民税及び事業税	18,279
法人税等調整額	△195,343
法人税等合計	△177,064
四半期純損失(△)	△396,072

(3) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

当第2四半期累計期間(自平成26年4月1日至平成26年9月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			その他 (注1)	合計	調整額 (注2)	四半期損益計 算書計上額 (注3)
	イエローハット	TSUTAYA	計				
売上高							
外部顧客への売上高	6,705,095	1,300,711	8,005,806	820,190	8,825,997	—	8,825,997
セグメント間の内部 売上高又は振替高	11,153	852	12,005	2,019	14,025	△14,025	—
計	6,716,249	1,301,563	8,017,812	822,210	8,840,023	△14,025	8,825,997
セグメント利益又は損 失(△)	△344,573	29,376	△315,197	8,487	△306,709	△194,884	△501,594

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、アップガレージ事業、ガリバー事業、ダイソー事業及び保険収入等を含んでおります。

2. セグメント利益又は損失(△)の調整額△194,884千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. セグメント利益又は損失(△)は四半期損益計算書の営業損失と調整を行っております。